

4. 指導方法を多様で効果的なものに改善

「考え、議論する道徳」の授業を大切に



「考え、議論する道徳」ってこれまでと何か違うのかな？

「読み物・押し付け道徳」と指摘を受ける授業がこれまで見られました。

【これまで見られがちであった授業】

読み物道徳 : 読み物資料の登場人物の心情理解のみに終始する授業
押し付け道徳 : 望ましいと思われることや決まりきったことを言わせたり、書かせたりする授業



考え、議論する（交流する）

主体的に自分との関わりで考え、多様な考え方、感じ方と出会い交流することができる授業（主体的・対話的）



物事を一面的に捉えるのではなく、多面的・多角的に、自分との関わりで考えることができるような工夫が大切です。

【多様な指導方法（例）】

- ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
 - ・自分自身を見つめたり、人物に共感して自分との関わりで気持ちを考えたりする。
- ② 問題解決的な学習
 - ・どのようなわけで大切なのか、どうすることが考えられるのかを見つめていく。
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習
 - ・具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行為することの難しさとその理由、弱さを克服することの大切さについて考えていく。

- 上記の指導方法は一例であり、道徳科の指導方法はこれらに限定されるものではありません。これまでの指導方法のよさを十分に生かしつつ、これらの方法も組み合わせながら、授業づくりを行うなどの工夫が必要です。
- まずは、明確な指導観（価値観、生徒観、教材観）をもつことであり、生徒に確実に考えさせる、価値の自覚を深められる指導の過程を大切にしましょう。

平成31年度より検定教科書が導入されます！